



# のっぽの手

- 📖 変わる組織、時代を読む
- 📖 ネットワークセンターの動き
- 📖 インボイス制度とNPOの関係



## 変わる組織、時代を読む—事務局長誕生—

理事長 牧田 実

昨年度、当センターの収支は大幅な赤字に転落しました。収入のほとんどが行政からの委託と指定管理であり、その使途に自由度はなく、団体の収入となる管理費を認められない契約もあるなど、行政との関係が深まるほど、赤字体質から抜け出せなくなるというジレンマがあります。これまではこの赤字分を民間助成金の獲得などで埋めていたのですが、震災後 10 数年を経てこれが先細りとなり、赤字が構造的な問題として眼前に現れたということ。このままでは遠からず組織が立ちゆかなくなる—いまそこにある危機。これを反転攻勢の機会とすべく、この春、組織基盤の強化に取り組むことにしました。

一つは、組織のスリム化を図るとともに、職員の部署横断的な就労や異動を活発にすることです。限られた人員を効率的に活用するとともに、職員の適性を見極め、人材育成につなげることが目的です。

もう一つは、事務局長ポストの新設です。現場の責任者として、全部署を統括する立場の事務局長を据えることは、当センター発足以来の悲願でありました。この重責を内山愛美さんに担っていただくことになりました。内山さんは、サポセンとふくサポの所長を兼務したうえでの事務局長就任となります。

時代とニーズの変化に対応し、中間支援組織として生き残っていくためには、企画力の向上と自主事業の展開がどうしても必要になります。強靱な組織づくりとともに、事務局長のバックアップ態勢を早急に整え、この新しい道を模索していきたいと思っています。



## ネットワークセンターの動き

副理事長 菅野 真

認定NPO法人として認定されたことを記念して創設した「ふくしま元気市民活動助成金」は、2009年から募集を開始し今年で15年目となります。また、まとまった寄付金を特別会計に繰り入れ2015年から募集を始めた「のっぽ基金助成金」は、今年で9年目となります。

当センターの中間支援NPOとしての役割も認知されてきており、2つの助成金もある程度お役にたっているかと思えます。ただ、東日本大震災の復興需要が収まる方向へ進んでいく中で、2つの助成金の在り方を変えるべきではないかと理事会で議論しているところです。本当に必要とされる助成金の在り方はどういうものなのか、皆様と話が出来ればと考えています。

中間支援NPOとしての2つの助成金の意義を改めて確認し、今後も募集をしていく所存ですが、皆様からの寄付が財源となっていることもあり、改めて更なるご支援を賜りたくお願いを申し上げます。

今年度も9月頃に両助成金の募集を始める予定です。皆様からの応募をお待ちしています。

### ふくしま元気市民活動助成金 2022年度助成団体名と事業名

- 特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ プチマン  
0歳児の発育に応じた運動遊び事業
- Nっ子ちゃん  
小さく生まれたお子さん（低出生体重児）と  
ご家族の交流会開催事業
- 表郷戦争回顧展実行委員会  
展示設置にかかわる備品整備及び資料補修事業

### のっぽ基金助成金 2022年度助成団体名と事業名

- 特定非営利活動法人 チームふくしま  
「お互いさまの街ふくしま」を創造する
- 地域のコミュニティ“場所づくり”“集づくり”子どもカフェたまご  
もうひとつの家



# 災害支援を考える

常務理事 深澤 秀樹



地震や台風などによる災害への対応は、行政や社協を中心に日ごろから様々な訓練や備えをしています。

ですが、我々も昨今の県内の災害支援に出向きましたが、完璧だったとはとてもいいがたいです。何故か。それは、時間との勝負の中であって、大量の情報を獲得し、処理し、取りこぼしのない支援を行う仕組みが、まだまだ未熟だからです。

そしてもう一つ大事なのが、心や感情を大切にしたい支援です。それらを解決するキーワードはやはり地域コミュニティの再構築であると考えます。家族のあり方や働き方の変化、そして地域のつながりの希薄化の中であって、誰も取り残さない地域をどうつくるか。被災者は多様、被害も多様、ニーズも多様、ですから多様な支援者が必要となります。

多様な主体が連携した地域社会づくりには、市民活動の多様性が生きるはずですが。行政や社協と連携し、地域に根差した様々な団体が、それぞれの活動の延長で災害支援を行う。そんな連携を日ごろから作り上げようと夢見る昨今です。

## 10月1日から「インボイス制度」が始まります！

インボイスって、  
NPOにも関係あるの？



チェック  
してみよう！



### Q.インボイスとは？

A.課税業者だけに与えられる登録番号に記載された請求書のことです。

### Q.登録を受けるかどうかの検討基準は？

A.参考までですが、課税業者である売り上げ先は、仕入れ控除の為、皆さんが交付するインボイスが必要です。しかし、課税事業者であっても、簡易課税制度を選択している売り上げ先はインボイスが不要です。

**登録を受けるかどうかは事業者の任意ですが、確認、検討してみる必要はあるかもしれません。**

### Q.NPOには関係ないのでは？

A.NPO法人などは収益事業のみ課税対象のため、収益事業を行っておらず基準期間の課税売上が1000万円以下の団体法人税・消費税ともに確定申告の義務がありません。しかし、インボイス制度施行後は対象ではない免税事業者であっても取引先のインボイス制度への対応によって影響が及ぶ場合があります。

### Q.登録を受けた場合と受けなかった場合は何が違う？

A.受けた場合はインボイスが交付され、課税業者として消費税の申告が必要です。一方、受けない場合はインボイスを交付されませんが、課税事業者となる必要はありません。売上先は経過措置期間、仕入れ額の一部が控除されます。

## ふくしま地域活動団体サポートセンター

4月から20代のスタッフを加え、若がえりをはかっています(笑) 実年齢はともかく、復興のフェイズの変革の時。「サポセン事業」「インターンシップ事業」「きずな補助事業」「NPOと企業とのマッチング事業」全てにおいてアグレッシブに「挑戦」を意識し、気持ちは若く事業に取り組んでいるところです。

ことにNPOの協働は様々な可能性が広がり、注目したいところです。インターン事業も、今年度、学生の申し込みが約70名あり、コロナ時代からの脱却!活動開始のムード満載です。県サポ事務局も乗り遅れないよう持ちうる力を出力全開で走り始めました。

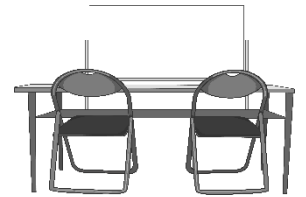
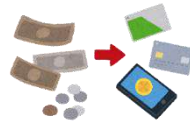


## 福島市市民活動サポートセンター

一昨年の12月より福島市公共施設予約システムが導入され、ふくサポもインターネットからの予約が可能となりました。

このシステムにより福島市内の34の文化・スポーツ施設の予約だけでなく空き状況の確認もでき、更に利用料のお支払いはオンライン決済、窓口ではクレジットカード、電子マネー、QRコードなどのキャッシュレス決済が可能となりました。予約も支払いも選べます。

利用者の方々にとっては大変便利になりましたので、ふくサポをご利用の際はオンライン予約からどうぞ。



## ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

4月下旬に令和5年度福島県内、県外補助金の募集が始まり、本年度、県内補助金では県内避難者と被災者(被災した県民)が主体的に参加し前向きに生活する事を支援する事業となりました。

生活基盤の中では、地域住民同士のコミュニティの広がりや、人と人との繋がりが持てる場があることは生きがいを感じられるものです。実施団体には避難者や被災者にとって生きがいを感じられるような支援事業の創出と実施に期待し、事務局では円滑な事務処理を始め助言及び適正な事業が実施出来るよう努めて参ります。



## まちなか交流施設 ふくふる

コロナによる規制が緩和され、夕刻のパセオ通りも以前のような賑わいが戻りつつあり、「ふくふる」に立ち寄られる方もまた増えてまいりました。

駅前通りに面した窓辺のカウンター席ではまちなか広場を眺めながら昼食をとる方、本好きイチ押しの本が揃う本棚前の席で読書タイムを楽しむ方、交流エリアでは友達とおやつを食べながら勉強に励む高校生。そして、実は意外と使える多目的ルーム。靴を脱いで上がるフローリングにテーブルが4つ。合わせると楕円形の大きなテーブルになります。お子さま連れのママ友ランチ会や誕生会、職場のランチミーティングなどに使われる方もいます。料金も1時間100円とリーズナブル。ぜひご利用ください。



## 事務局トピックス

4月に新たに事務局長が誕生し、自主事業の企画や会員特典の検討、HP等情報発信の強化など、新たな挑戦がはじまろうとしております。また、会計業務に詳しいスタッフが加わり、会計相談の幅も広がってきました。

5月には、チェンバおおまち4階北側のふるふる事務所へ同居のため、引越しを行いました。整理整頓が得意なスタッフの手により、機能的な事務所が出来上りました。

事務局一同力をあわせて新たな挑戦へ取り組んでいきたいと思っております。

### 【お詫び】

ふくしまNPOネットワークセンター創立20周年記念誌内役員・会員名簿に置いて、記載漏れがございました。

正会員 斎藤 喜章 様

正会員 渡部 美加 様

お二方にはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

### —福島県より受託、運営している施設—

#### ●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町8-2 福島県自治会館7F

TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741

URL <https://f-saposen.jp>

E-mail [saposen@f-npo.jp](mailto:saposen@f-npo.jp)

### —福島県より受託、運営している施設—

#### ●ふるさとふくしま交流・相談支援事業 事務局

〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち4F

TEL 024-529-7150 FAX 024-529-7153

URL <https://www.ff-shien.jp>

E-mail [furufuku@ff-shien.jp](mailto:furufuku@ff-shien.jp)

### 編集後記

- 桜の後は水芭蕉、これからキスゲの花。巡る自然との触れ合いは、心地良いですね。(深澤)
- 猫と共に眠る日々、目を覚ます度に大アップ猫顔にドキリ!! (マータン)
- 花火・かき氷……今年の夏は、のんびり夏時間を味わいたい。(さくら)
- 4月から仲間入りさせて頂きました。どうぞよろしくお願いいたします。(みえ)
- 新しい場所、新しい仲間と頑張りたいと思います!! (梅)



## 新任者より一言

ふくサポ、県サポ等での現場経験を活かして、地域に寄り添う組織を目指していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 局長  
内山 愛美

市街地の一等地。基本無料。自由。一人でふらっと・出会い・ふれあい・助け合い……。是非、何か知恵が欲しい。

まちなか交流施設ふくふる 所長  
深澤 秀樹

スタッフはじめお客様や地域の方々とアイデアを出し合いながら新しいふくふるを築いていきたいと思っております。

まちなか交流施設ふくふる 副所長  
永井 有未

今年是指定管理のプロポーザルの年になります。3回目の受託が出来るよう、所長が不在の間、しっかり代行したいと思います。

福島市市民活動サポートセンター 所長代理  
高槻 光子

### 【新会員のお知らせ】

ご入会申込をいただいた会員の皆様をお知らせいたします。

正会員 大場 秀樹 様

正会員 特定非営利活動法人チームふくしま 様

ふくしまNPOネットワークセンターでは今後もNPO活動・市民活動を支援していく会員を募集しております。

ふくしまNPOネットワークセンターの会員となってよりよい市民社会をつくっていきませんか？

### —福島市より受託、運営している施設—

#### ●まちなか交流施設 ふくふる

〒960-8035 福島市本町2-6

TEL 024-524-3717 FAX 024-525-8156

URL <https://fukufuru-machinaka.jp>

E-mail [f.machinaka@gmail.com](mailto:f.machinaka@gmail.com)

### —福島市の指定管理者制度で運営している施設—

#### ●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち3F

TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560

URL <https://www.f-ssc.jp>

E-mail [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

### 《編集・発行》

認定特定非営利活動法人

ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8068

福島市大町4-15 チェンバおおまち4階

TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931

E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp)

URL <https://f-npo.jp/>

